

しゃくなげ

学校の教育目標 志をもち 仲間とともに創りだす生徒



志をもち 仲間とともに創りだす生徒

校長 福井敏彦

3月6日、七宗中卒業一期生が誇らしい礎を築いて巣立ちました。翌週には1・2年生がその礎の上に素晴らしい城を築き始めています。どの学年も学校の教育目標である「志をもち 仲間とともに創りだす生徒」の姿を示して、今年度をしめくることができそうです。

「合唱」は七宗中の「宝」

中日新聞コラム「せせらぎ」で、卒業式の合唱を取り上げていただきました。上麻生中、神湊中ともに生徒会活動の柱として大切にしてきた活動が「七宗中の宝」となったことを、可茂地区・東濃地区に広く紹介されました。今年度末に統合を迎える東濃地区の校長先生からは「こんな統合がしたい」とうれしい感想をいただいています。

「宝」となった合唱は一日にして成らず。地道な日々の努力の積み重ねによって成立していることは言うまでもありません。卒業式後も、歌うことが得意な子、そうでない子、多様な子が、よりよい合唱をつくろうと地道に挑んでいます。その姿こそ「宝」です。

「みこし」は「志をもつ」シンボル

中日新聞・岐阜新聞に取り上げていただいた卒業式後の「みこし」。発起人の大前柑太さんは「担任の先生に感謝の気持ちを伝えたい」と語っていました。その言葉通り、当日は見事な仕切りで盛り上げ、感謝の気持ちを伝えきっていました。「強い願い・志が原動力になると、これほどまでに頼もしい姿になるのだな。」と、頼もしい行動力に感動しました。「みこし」は「感謝を表すシンボル」であるとともに「志を表すシンボル」にもなりました。

強い願い・志を引き継ぐ1・2年生

令和8年度の生徒会役員を決める選挙がありました。まず、よりよい七宗中を創ろうとするリーダーの演説が素晴らしかった。「話す」のではなく「訴えかける」熱量を感じました。そして、演説を聞いた仲間の質問の仕方も素晴らしかった。回答を聞いた後「ぼくもあいさつを頑張りたい」と返す姿に「自分も生徒会の一員としてよりよい学校を創りたい」という願い・志を感じ、うれしくなりました。卒業生が大切にしたい協働の姿は確かに引き継がれています。

後日生徒会執行部が委員長面接を行ったのですが、これもまた素晴らしかった。本来1回で終わるところ「熱量が足りない」との理由から後日再度実施。専門委員長はその指摘に応え、2回目は見事熱量高く志を語ることができました。たかが返事、されど返事。りりしい「はい」の返事から始まった演説に、説得力を感じました。厳しさも成長には必要、これも卒業生が大切にしたい姿です。

今年度、見守り支援してくださった保護者の皆様、地域の皆様、行政・町教委の皆様、本当にありがとうございました。「失敗は経験値」来年度の挑戦にもご理解・ご支援よろしくお願ひします。